

日特建設

# 国内最大の削孔機完成

## 深さ100メートルまで掘削可能 港湾耐震アンカーに投入



従来機を大きく引き離すスペックで差別化を図る

日特建設は、国内最大級のスペックを持つロータリーパーカッションドリル「Ein Bandドリル」を完成させ、製造委託した東亜利根ボ—リング塩山工場(山梨県甲州市)で報道関係者に公開した。この大型削孔機は216ミ径で深さ100メートルまでを掘削でき、従来機に比べ2倍以上の削孔能力を持つ。今後、港湾耐震補強工事でのグラウンドアンカー施工などに投入し、他社との差別化を図りたい考えだ。

最近の港湾耐震化工事では、施工するアンカーが大径・長尺化する傾向にある。大型機による効率的な施工を進めるため、同社は国内最大級となる削孔機の製造を決めた。重量は13ト、3速ギアを持つ回転機構は最大トルク2・4ト、フィード力18トと、従来機を大きく引き離すスペックを備える。

削孔時に打撃・回転力を与える心臓部のドリフターはドイツ製。東日本大震災の復旧・復興工事にも投入する見通しのため、ドイツ語で「絆」を意味する「Ein Band」と命名した。ドリフターヘッドに左右スライド機構を持たせたことで、小口径杭の打設作業にも対応できる。製造期間は、設計も含め約1年間。現時点では主に港湾耐震化工事に導入する方針だが、今後、市場が顕在化するとみられるガムの耐震補強工事でも導入を進めたい考え。一方、アンカー施工以外の用途としては、小口径杭の施工や地熱利用関連工事などをターゲットとしている。



捨石層も貫通できる

